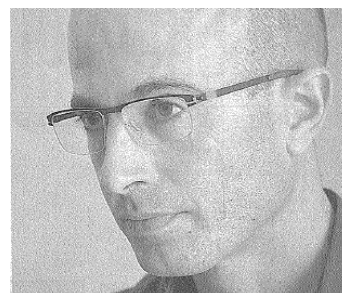


## 新型コロナ ここが政治の分かれ道

ユヴァル・ノア・ハラリ  
ヘブライ大学教授・歴史学者

新型コロナウイルスによる感染症の脅威に世界中がすくんでいる。私たちはどう立ち向かうべきなのか。人類史を問い直し、未来を大胆に読み解く著作で知られるイスラエルの歴史学者、ユヴァエル・ノア・ハラリさんが電話でのインタビューに応じた。  
(朝日新聞 2020.04.15 抜粋)



### 長い目で見れば独裁より民主主義 双方向の監視有効

#### ——私たちはどのような課題に直面しているのか——

○世界は政治の重大局面にあります。ウイルスの脅威に対応するには、さまざまな政治判断が求められるからです。

○まずは国際的な連携で危機を乗り切るといった選択肢があります。他方で、国家的な孤立主義を選ぶこともできる。他国と争い、情報共有を拒み、貴重な資源を奪い合う道です。どちらの選択も可能で、政治判断に委ねられています。

また、ある国はすべての権力を独裁者に与えるかもしれない。別の国では民主的な制度を維持し、権力に対するチェックとバランスを重視する道を選ぶでしょう。すべてにおいて明確な答えはなく、政治に委ねられます。だから私は現状が医療だけでなく政治の重大局面だと定義するのです。

#### ——独裁と民主主義のうち、どちらが感染症の脅威にうまく対応しているか——

○日本や韓国、台湾のような東アジアの民主主義は、比較的うまく対処してきました。しかし、イタリアや米国は同じ民主主義でも状況ははるかに悪い。独裁体制でも中国は、うまくやっているように見えます。中国がもっと開かれた民主主義の体制であれば、最初の段階で流行を防げたかもしれない。一方でイランやトルコといった他の独裁や権威主義体制は失敗している。報道の自由がなく、政府が感染拡大の情報をもみ消しているのが原因です。

#### ——どちらの政治体制が望ましいとは言えないわけですか——

○長い目で見ると民主主義の方が危機にうまく対応できるでしょう。理由は二つあります。情報を得て自発的に行動できる人間は、警察の取り締まりを受けて動く無知な人間に比べて危機にうまく対処できます。

独裁の場合は、誰にも相談をせずに決断し、速く行動することができる。しかし、間違った判断をした場合はメディアを使って問題を隠し、誤った政策に固執するものです。これに対し、民主主義体制では政府が誤りを認めることがより容易になる。報道の自由と市民の圧力があるからです。

## 国境封鎖しても孤立より連携を 敵は内なる悪魔

### ——感染が一気に拡大したのはグローバル化の弊害だという指摘をどうみるか——

○グローバル化がなければ感染症は流行しないと考えるのは間違いです。文化も街もない石器時代にもどるわけにはいきません。

○むしろ、グローバル化は感染症との闘いを助けるでしょう。感染症に対する最大の防御は孤立ではありません。必要なのは、国家間で感染拡大やワクチン開発についての信頼できる情報を共有することです。

### ——各国は国境を封鎖し、グローバル化に逆行していようにも見えるが——

○国境封鎖とグローバル化は矛盾しません。封鎖と同時に助け合うこともできます。願わくば、国家間も家族のようになれたらいい。確かにいまは隔離が必要です。でも憎しみや非難の心ではなく、協力の心のもとで隔離するのです。

○今回は EU にとって大きな試練です。連帯を実現できれば EU を強くすることが出来るでしょう。英国がブレグジットから戻ってくることであるかもしれない。危機の中でこそ、EU は価値を証明できる可能性があるのです。米国がリーダーシップをとらないなら、EU や日本、中国、ブラジルや他の国々が一緒になって立ち上がることを望みます。

○感染症は全世界が共有するリスクだと考える必要があります。たとえば日本からウイルスが消え、しかし南米ほかで流行が続いているとしましょう。ウイルスが人類の体内にいる限り、より致命的になったり、感染力が強まったりしてあなたの国に戻ってくる。そして、さらに深刻な流行を引き起こすのです。どの国も安全でいることはできない。これが、我々が直面している最大の脅威なのです。1918 年のスペイン風邪の流行は一度では終わりませんでした。18 年春には第一波が世界中で流行しましたが死亡した人は少なかった。その後ウイルスが突然変異し、18 年夏から感染が広がった第二波では多くの死者が出ました。さらに第三波もありました。

### ——世界にはどんな変化が起きているのか——

○危機の中で、社会は非常に速いスピードで変わる可能性があります。よい兆候は、世界の人々が専門家の声に耳を傾け始めていることです。科学者たちをエリートだと非難してきたポピュリスト政治家たちも科学的な指導に従いつつあります。危機が去っても、その重要性を記憶することが大切です。気候変動問題でも、専門家の声を聞くようになって欲しいと思います。

○悪い変化も起きます。我々にとって最大の敵はウイルスではない。敵は心の中にある悪魔です。憎しみ、強欲さ、無知。この悪魔に心に乗っ取られると、人々は互いを憎み合い、感染をめぐる外国人や少数者を非難し始める。これを機に金もうけを狙うビジネスがはびこり、無知によってばかげた陰謀論を信じるようになる。これが最大の危機です。

○我々はそれを防ぐことができます。この危機のさなか、憎しみより連携を示すのです。強欲に金もうけをするのではなく寛大にヒトを助ける。陰謀論を信じ込むのではなく、化学や責任あるメディアへの信頼を高める。それが実現できれば、危機を乗り越えられるだけでなく、その後の世界をよりよいものにすることが出来るでしょう。我々はいま、その分岐点の手前に立っているのです。

## 新型コロナ禍 隠された真実や楽観論 100年前にも

朝日新聞「日曜に想う」2020.04.15 抜粋

歴史は冷淡である。学べたはずの教訓が、100年前にあった。

1918～20年、インフルエンザ（スペインかぜ）が数千万人の命を奪った。米国、中国など起源は諸説あるが、第一次世界大戦のさなか、国境を越えて移動する兵員とともにウイルスはたちまち全世界に広がった。約70万人が犠牲になったとされる米国でも、とりわけ凄惨を極めたのが、海軍造船所があった東部の都市フィラデルフィアである。

18年9月、ボストンから入港した約300人の乗組員から感染は広がった。折しも、戦費を調達する国債の宣伝を兼ねた盛大なパレードが計画されていた。だが、市の公衆衛生局長は感染拡大の事実を伏せた。病人が増えていることは「普通のかぜ。心配には及ばない」で通した。パニックが広がること、士気が下がり、国債販売が目標に届かないことを局長は恐れたという。専門医たちの反対を押し切り、パレードは決行された。楽隊や新造の飛行艇を一目見ようと20万人の市民が沿道を埋め尽くした。大感染の暴風が吹いた。72時間後には市内31の病院のベッドが埋まった。翌春までに15,000人が帰らぬ人となった。

情報が厳しく統制された非常時ではあった。それを割り引いても「市民にウソをついた代償は大きかった」と、当時に関する著作がある歴史家のジョン・バリーさんは話す。ウイルス到来を知らしめて被害を抑えた年もあったからだ。

政治家の「沈黙」はウソに負けず劣らず罪深い。当時のウイルソン大統領は国内でのインフルエンザ流行に関して正式な声明を出さなかった。それが「楽観論をはびこらせた」（バリーさん）。

新型コロナ禍が迫りくるあいだ、米国民がトランプ大統領から聞かされてきたのは、「暖かくなればウイルスは奇跡のように消える」といった根拠の乏しい楽観論、「私に（検査の遅れの）責任は全くない」などの自己保身、そして政敵やメディア、世界保健機構（WHO）への責任転嫁である。

平時なら政治ゲームと笑い飛ばせただろう。だが、失われた多くの人命と未曾有の経済危機という重い事実、トランプ流は持ちこたえられるだろうか。

フィラデルフィアの名誉のために付け加えておきたい。地元の歴史家によると、機能不全に陥った行政にかわって立ち上がったのが市民だった。患者搬送に自家用車を供出したり、貧困地区で食事を配ったり、親を亡くした子供を引き取ったり、犠牲は大きかったが復興も早かった。

今だからこそ学びたい教訓である。

（朝日新聞アメリカ総局長 沢村氏）

## ミャンマーにおける新型コロナウイルス対策

松尾伸之

日本コンサルタンツ

新型コロナウイルスは、まだ世界各国で猛威を奮っている状況で、日本では緊急事態宣言が解除されたが、まだ楽観できる状況ではない。私は、3月初旬からミャンマーのヤンゴンに滞在していたが、3月下旬から新型コロナウイルスの感染が拡大してきたことを受けて4月10日に緊急帰国し、2週間のホテルでの自主隔離を経て、自宅に戻った。今回、ミャンマーのヤンゴンでの滞在をもとに、どのような新型コロナウイルス対策がミャンマーでされていたかを紹介したい。

ミャンマーの医療事情は、決して良くない。ミャンマーで重病にかかった場合は、タイのバンコクかシンガポールの病院へ搬送される。そのため、新型コロナウイルスは、ミャンマー国内では対処できないとミャンマー政府は思ったのだろう。広まり出してからミャンマー政府の対応は早かったと思う。アウンサンスーチーさん自らが手洗いをする広報ビデオが作成され、YouTube等を通じて、ミャンマー国民にあつという間に浸透した。主要駅に臨時の手洗い場が設置されたほどである。また、スーチーさん自ら、自らの手製のマスク姿の写真をネット上にアップし、繰り返し使える布でマスクを自作するよう国民に呼び掛けたりもした。

一方、ミャンマー政府の入国制限措置の発動の意志決定も早かったと思う。ミャンマーでの感染者の発覚後、夜間外出禁止令の発動やセミロックダウン(不要不急の外出は不可)の発動が行われた。また、5人以上の集会は禁止といった命令も出た。これらに違反した人が捕まったというニュースもあった。レストランは持ち帰りのみとなってしまう、レストランでの飲食ができなくなり、現地での食事に私自身も苦労した。

各種の施策で、医療体制の整っていない人口6000万人のミャンマーで、感染者はわずか249人(死者6人)である(6月11日現在)。一度、ミャンマーで感染が広まりだしたら、国としても拡大を止められず、国民もその状況をイメージできたので、不便な生活ではあっても、国の方針に国民が素直に従ったのだろう。気候や文化の違いはあれ、ミャンマー政府の早めの対策、国民の冷静な対応で、ミャンマーでも収束に向かいつつある。世界ではあまり知られていないが、好事例のような気がしている。

私が日本へ帰国してしばらくしてから、私がよく通っていた日本料理屋のミャンマー人マスターが新型コロナウイルスに感染したようだと言人を通じて連絡があった。その店のFacebookにミャンマー語の長文が載っていたので、翻訳ソフトを使用して解読してみたところ、「お客様には大変迷惑をかけました。また、おいしい日本料理が提供できるよう、一から出直して、頑張っていきたい。」というような決意表明が書かれていた。今度、ヤンゴンへ行った際は、この日本料理屋へ寄って、大変だったねとマスターに声をかけるつもりでいる。



ヤンゴン駅に設置された臨時手洗い所

## 疲れる土・・・土には種類がある

The Asahi Shimbun GLOBE(May 2019 No.217) 抜粋

世界各地で、土が疲れている。あるいは病にかかっている。多くは、人間の経済活動が原因だ。森や水や石油、鉱物ならすぐに思いつくような「私たちが一方的に使うだけなら、地球の資源はいつか枯れていく」という何とも当たり前の関係が、実は土にも成り立っている。

土は岩から生まれる。太陽光や風、水などにさらされた岩は砕かれ、粘土鉱物と言われる小さな粒になる。これが「土台」になる。さらに火山灰が土台になることもある。

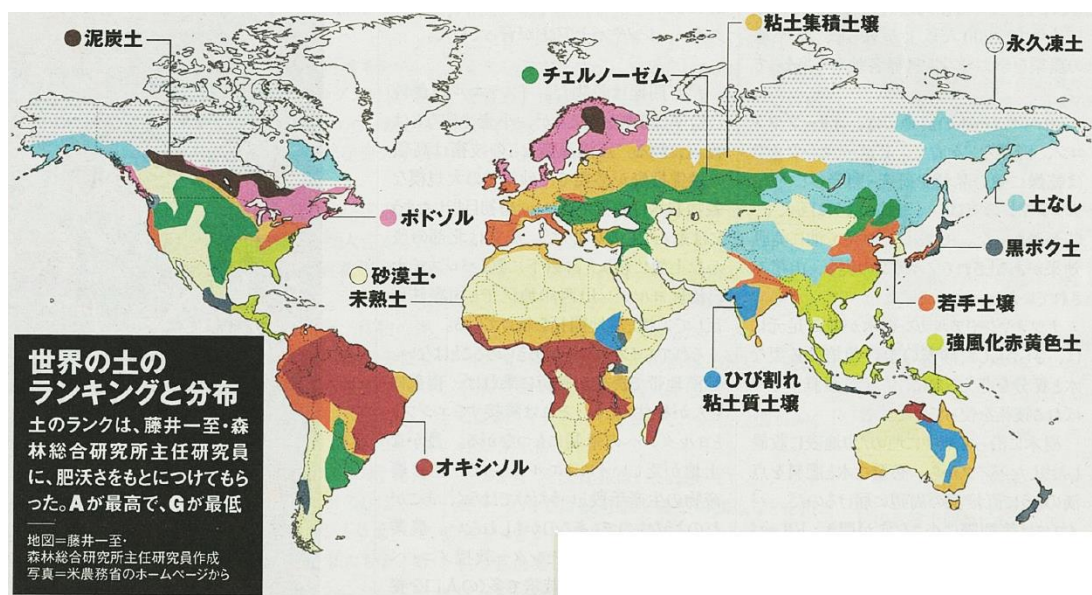
そこに微生物をはじめとして動植物がすみつくようになると、死後に分解されながら土台にまじっていく。こうして数千年から数千万年をかけて今の土になった。

世界の土は、その性質によっておもに12種類に分けられている。最も肥沃な土として知られているのが「チェルノーゼム」だ。養分のバランスがよく、土の中によく保たれている。この土はウクライナやロシア、中国などのユーラシア大陸のほか、カナダやアメリカのプレーリー、アルゼンチンのパンパなどにも分布している。

一方で「永久凍土」や「砂漠土」など、農業に向かない地域の土もある。

色もさまざま。赤や黄色は、おもに鉄さびと同じく鉄分の酸化によるもので、古いほど赤いと言われる。黒の多くは、草の根などの動植物の死骸や排泄物が分解されてできる「腐食」の色だ。養分が地下水位に抜け落ちて灰色になっている土もある。

農業に向けた土の豊かさは、微妙なバランスで決まる。養分をどれくらい蓄えているかという「中身」も大事だが、「形」も大事。土の粒の大きさが、保水力や耕しやすさ、収穫しやすさなどを左右する。



**ランク A：チェルノーゼム**

土の皇帝、そう呼ばれてきた土。土壌の養分が豊富でバランスがよく、作物の栽培に非常に適した性質の土だ。「欧州のパンかご」と呼ばれるウクライナは、土壌の6割がその黒い土に覆われる。

第2次世界大戦中、侵攻してきたナチスが土を貨車で運び出そうとしたという逸話も残る。

**ランク C：黒ボク土**

黒ボク土は火山灰が土台だ。土の成分には草原だった痕跡も残っており、縄文人が野焼きなどをしていたところにできた土とも言われる。粒が細かいので作物の根が伸びやすく、保水力が適度にあり、有機物も多い。根菜類にはぴったりの土。ただし黒ボク土はクセが強い。肥沃なチェルノーゼは、ため込んだ養分を簡単に作物に渡してくれる。ところが黒ボク土の場合、雨が多い日本でもしっかりと養分を抱え込んでいるだけであって、作物にもその養分を渡してくれない性格なのだ。化学肥料を組み合わせることで性格を改良し、幅広く活用されるようになったのは第2次大戦後だ。こうした欠点を補う方法の一つが水田耕作だった。土を水中に沈めてしまうと、養分を取り出しやすくなるからだ。

**ランク D：強風化赤黄色土**

強風化赤黄色土は、風化が進み、酸性でやせた土だ。熱帯の森では、樹木からの落ち葉などの有機物が地表に集まってくる。これらが養分になりそうだが、実際には微生物が分解してしまうスピードが速いうえ、雨も養分を押し流し、土には残りにくい。無理して農業をするよりも、穴を掘って石炭を売った方がはるかに早く大きな稼ぎになる。

**ランク E：オキシソル**

風化が進んだ赤土は「オキシソル」と呼ばれ、養分が少ない。アマゾンの密林と違って生えている木や草も少ないから、焼き払った灰を土に戻しても農業に十分な養分が得られなかった。

**ランク G：砂漠土**

砂漠土では食物はほとんど育たない。農業には灌漑が不可欠で、塩害を受けることも多い。砂漠が国土の60%を占めるイスラエル、集団農場（キブツ）では、点滴灌漑や水耕栽培で多くの野菜や果樹を育てている。

\* 点滴灌漑：樹木に沿って地中に埋めたり地表に設置したりしたパイプから、必要な水と肥料を点滴のように直接根の周辺に届ける。



## NEWS

## ■ニュースなことば

## 【人生会議（ACP）】

命にかかわる大きなけがや病気をするなど、人生の最終段階においてどんな治療やケアを受けたいかを、家族や医師らと前もって話し合っておく取り組みのこと。アドバンス・ケア・プランニングと呼ばれ、その愛称が人生会議である。厚労省は「いいみとり」にかけて11月30日を「人生会議の日」として制定している。

## 【きょうだい児】

障害や病気をもった子の兄弟姉妹のことをいう。きょうだい児は、幼いころに寂しい思いをしたり、兄弟姉妹のことでからかわれ傷ついたり独特な悩みを抱えている。さらに、親を困らせたくないと感じて孤立感を抱えていることもある。

## ■計画・交通研究会が会報 2020-05 を発行

□Interview. これからの空港のあり方を考える

- ①成田空港の未来のカタチ——機能強化について 日大理工学部教授 轟朝幸
- ②成田空港の滑走路増設で世界最高水準の首都圏空港を目指す
- ③躍進する関西圏と2030年を見据えた関西3空港の成長戦略

□News Letter 産学共働若手勉強会 2019年度活動報告

□Projects. 120余年の軌跡を振り返って 大林組土木本部 川崎紘誉

□Opinion. 住み継がれるまちの実現 東武鉄道(株)鉄道事業本部計画管理部長 志村健

\*詳細は下記事務局にお尋ね下さい。

Email: jimukyoku@keikaku-kotsu.org HP: <http://www.keikaku-kotsu.org>

## ■シビルNPO連携プラットフォーム（CNCP）が会報 第74号 を発行

◇シリーズ 「分かり易い土木」 第2回 東京湾の埋め立て

◇巻頭言 コロナと共に～駆け足でやってきた未来とまちづくり～

茨城の暮らしと景観を考える会 代表理事 三上靖彦

◇コラム 既に起こっている未来 (株)熊谷組常務執行役員国際本部長 山崎 晶

◇身近な土木遺産シリーズ第5回 街なかの土木遺産

宮崎県延岡市の「五ヶ瀬川の豊堤（たたみてい）」五ヶ瀬川の豊堤を守る会会長 木原万里子

◇部門活動紹介 事業化推進部門 土木と市民社会をつなぐ事業研究会報告（その2）

◇緊急企画 紙上ワークショップ “With コロナ” のシビルNPOを考える

◇6月からシビルNPO連携プラットフォームの活動を再開します

\*詳細はCNCP事務局にお尋ねください。Email: [info@npo-cnep.org](mailto:info@npo-cnep.org) HP: <http://npo-cnep.org>

## ■最近の気になるニュース 岩井有人さん（JR 東日本）の Facebook より抜粋

### ① 新駅・再開発で変わる東京・虎ノ門（06.01）

東京メトロは6日、地下鉄日比谷線の新駅「虎ノ門ヒルズ駅」を開業する。同駅は再開発ビル「虎ノ門ヒルズ」各棟と地下で直結。オフィス利用者などの利便性が大きく向上する。将来的には臨海部と虎ノ門を短時間で結ぶバスなども発着する予定。

### ② 日高線バス転換へ JR 北海道が支援 25 億円を提案（06.07）

JR 北海道は日高線（竹川～様似 116 km）のバス転換を容認した様似町など沿線7町に対し、代替バスの運行や地域振興目的での総額25億円の支援を提案した。バス転換のコストとして20億円、まちづくりに5億円をJRが提供する。

- ・東京都の人口、5月1日時点推計で1,400万人を突破（06.11）
- ・インドネシア、日本に高速鉄道参加打診へ、中国主導で遅れ（06.06）
- ・新宿駅の東西自由通路、7月に供用開始（06.04）
- ・震災復興伝承館が30日オープン、名取市・・・地区（05.31）
- ・リニア工事準備、6月再開ないと、「27年の開業難しく」（05.30）
- ・中国測量隊チョモランマ（エベレスト）登頂、世界最高峰の標高を再測定（05.27）
- ・緊急事態宣言全面解除を首相表明、臨時交付金2兆円増額（05.26）
- ・富士山、この夏閉山（05.19）

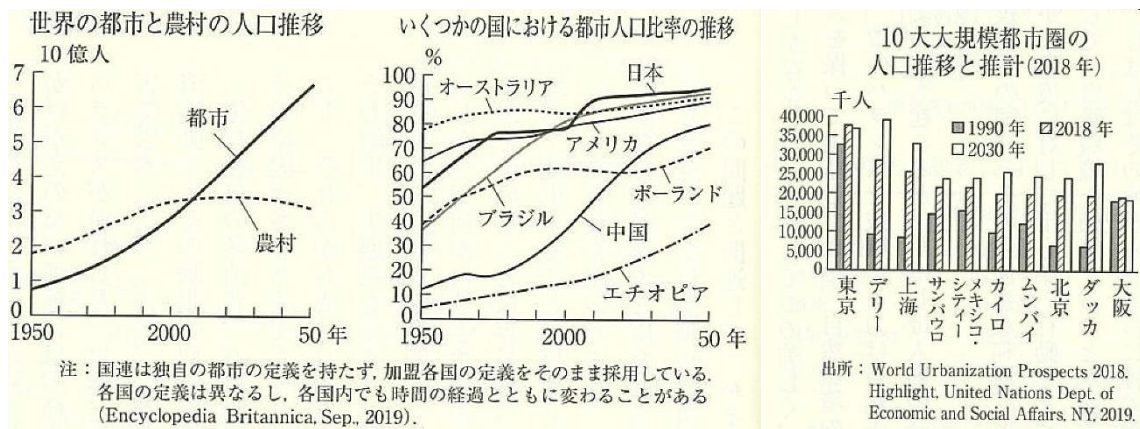
## 今月の国際比較データ

### ① 世界の都市人口

出典：世界経済図説第4版 岩波新書

経済的効率性、文化的施設の存在、生活の利便性などから、人口や産業、特にサービス産業は都市、それも大都市に集中する傾向がある。巨大都市は特に途上国で増加傾向にあり、さまざまな公害、特に大気汚染による健康面への被害が深刻になっている。

今後、長期的展望に立つ都市の改造計画を作って対応をすすめるとともに、中央政府や国際機関の協力のもと、地方分散・地方分権化計画を進める必要がある。





② 地下鉄路線延長と乗車人員 出典：これからの海外都市鉄道 (一社) 海外鉄道技術協会

図1の直線上あるいはその付近にある都市は、地下鉄ネットワークの充実度が東京とほぼ同等ということになる。このラインから大きく上に離れたパリやマドリードのネットワーク充実度は大変高いものになる。逆に北京や上海あるいはデリーのネットワーク密度は都市の規模に比べるとまだかなり低いことがわかる。

図2の原点と東京を結ぶ直線の勾配は東京の地下鉄の平均輸送密度を表している。東京の輸送密度を100%とすると、ソウルが約70%、パリが約60%、ニューヨークが約50%となり、ロンドンは約30%と顕著に低くなっている。東京の地下鉄の輸送密度は、どこの国と比較しても、突出して高いことがわかる。その理由はいろいろ考えられるが、とくに路線のほとんどが相互直通運転を行っていて、民鉄やJRの郊外電車で遠方から運ばれるきわめて大量の乗客が、直通もしくはホーム上での便利な乗り換えによって、地下鉄ネットワークに流入してくることによるものと考えられる。

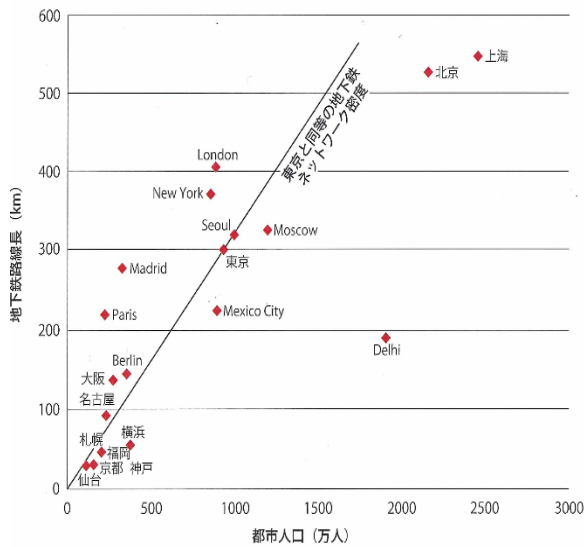


図1 主要都市人口と地下鉄路線延長

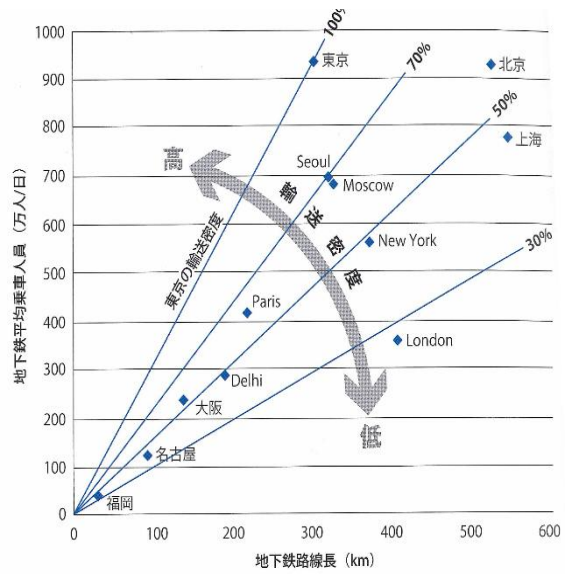


図2 地下鉄路線延長と乗車人員

③ たばこの値段

出典：朝日小学生新聞 2020.06.03

喫煙人口、世界的には減少傾向にある。しかしたばこの価格は、同じ銘柄でも国や地域によってバラバラである。先進国を中心に健康問題から禁煙を奨励しており、高い税金をかけて購入しづらいよう「高価」に誘導している。

一般論だが、宗教の戒律が厳しい国、民衆のうっ憤が溜まっているような国ではたばこ代が安いという(国民の不満ストレスのはけ口?)。教育、環境問題、健康について意識の高い国ではたばこ代も高く、かつ喫煙スペースも限られているようだ。

各国の同一銘柄 たばこの価格 (20本入り一箱)円換算	
カナダ	1180円
フランス	1210円
ドイツ	760円
イタリア	690円
イギリス	1680円
オーストラリア	2220円
日本	520円

国立がん研究センター調べ(2020年2月)

## PF書店

## ① 鉄道インフラメンテナンス図鑑 土木学会

鉄道の安全、安定、快適さを、100年以上も毎日守り続けている鉄道インフラメンテナンス。

土木学会 2019 年度会長特別委員会（委員長：林康雄土木学会会長）で現状分析を実施するとともに、今後の鉄道のメンテナンスはどうあるべきかを議論してきた。その成果の 1 つとして、一般社会に向けてアピールするためにまとめられたのがこの「図鑑」。

本書では、特に土木構造物と軌道がどのように守られているのか、新しい事例とともに紹介し、鉄道インフラとは何か、その維持管理・更新の重要性や仕事について楽しく学ぶことが出来る。

<http://committees.jsce.or.jp/cprcenter/node/227>



## ② 2020年6月30日にまたここで会おう 瀧本哲史著 星海社新書

投資家で京都大学の教壇にも立つ筆者が、2012年6月30日に東京大学で行った特別講義を収録。全国から集まった29歳以下約300人に向け、飛ばされた**6つの“檄”**がライブ感たっぷりに再現されている。

- 第1檄 人のふりしたサルになるな
- 第2檄 最重要の学問は「言葉」である
- 第3檄 世界を変える「学派」をつくれ
- 第4檄 交渉は「情報戦」
- 第5檄 人生は「3勝97敗」のゲームだ
- 第6檄 よき航海をいけ

著者は昨年8月、47歳の若さで他界。タイトルに込められた「約束」、その時が訪れたとして、筆者は一体どんな生き方を選んだのだろう。



## ③ 地球に住めなくなる日 デイビッド・ウォレス・ウェルズ著 藤井留美訳 NHK出版

SDGs時代の必読書

気候崩壊の実態は思っているよりはるかに深刻だ。現状のままでは、2050年までに100都市以上が浸水し、数億人が貧困にあえぐことになる。温暖化がもたらすのは海面の上昇だけではない。殺人的な熱波、大洪水、大気汚染、経済破綻など様々な影響を与え、壊滅的な危機へと向かわせるのだ。

- ・今世紀末までに日本を含むアジアの大部分が居住不可能に
- ・4℃上昇で北極圏にヤシの木が
- ・2050年までに気候難民が10億人に



## 事務局通信

## ◆未来構想 PF のホームページを改修しました。

会員はもちろん社会に大きく開かれた PF を目指し、「参加型」の HP としました。

[未来構想 PF](#) で検索してみてください。

<https://miraikoso.or.jp/>

## ● 今月の写真コーナー ●

## 【ミャンマーの鉄道風景】

## ① ゴッティ鉄道橋（マンダレー北部）

世界で 2 番目に高いと言われる鉄道橋、水面から約 100mの高さにある。第 2 次世界大戦中の爆撃により、上部工が破壊されたが、わずか 10 日間で日本の鉄道連隊が復旧工事を終了させたという記録が残っている。現在、1 日 1 往復の旅客列車の運行がある。



## ② 橋梁上のガントレット（単複線）（タウンゲー近郊）

用地幅が足りない等で使用される軌道構造である。この橋梁は戦前に構築され、鋼材の不足で 1 つの橋梁を上下線で共有したと思われる。このガントレットは、最近まで使用されていたが、隣接して新しい橋梁が完成したために、上下線別々の橋梁になり、単線の橋梁となった。



## ③ 手動転換の三線分岐器（ヤンゴン臨港線：運転休止中）

メーターゲージと標準軌の手動転換による三線分岐器。かつて、標準軌用の路面電車とメーターゲージ用の貨物列車が共用していた。現在、休止線になっている。



## ④ 列車の乗降口に取り付けられたステップ（ヤンゴン環状線）

列車と低床ホームの乗り降りをしやすくするため、日本からの中古車両に後付けで取り付けられた乗降用ステップ。建築限界をはみ出して取り付けているため、建築限界支障を頻繁に起こす。



（JIC 松尾伸之さん）

プラットフォーム通信では、メンバーの皆様の投稿をお待ちしています。  
 連絡先：未来構想 PF 事務局 土井 携帯:090-9150-8613 メール：[info@miraikoso.or.jp](mailto:info@miraikoso.or.jp)  
 〒100-6005 東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビル 5F-28